

2024年度第2四半期（中間期） 決算説明会

2024年10月30日

広栄化学株式会社
代表取締役社長 西本 麗

目次

◆ 1 .会社概要	2
◆ 2 .2024年度中間期決算概要	7
◆ 3 .2024年度業績見通し	14
◆ 4 .中期経営計画進捗	20
◆ 5 .新中期経営計画	36

目次

◆ 1.会社概要	2
2.2024年度中間期決算概要	7
3.2024年度業績見通し	14
4.中期経営計画進捗	20
5.新中期経営計画	36

1. 会社概要

(1) 会社概要

①設立 1917年6月17日

②資本金 2,343百万円

③社員数 429名※ (2024年9月末)

④拠点

東京本社：
東京都中央区日本橋小網町1番8号

千葉事業所：
千葉県袖ヶ浦市北袖25番地

ベルギー事務所：
駐在員（住友化学ヨーロッパ出向）

子会社（KGS株式会社）：
千葉県袖ヶ浦市北袖25番地

※嘱託含む
(派遣社員は含めない)



千葉事業所

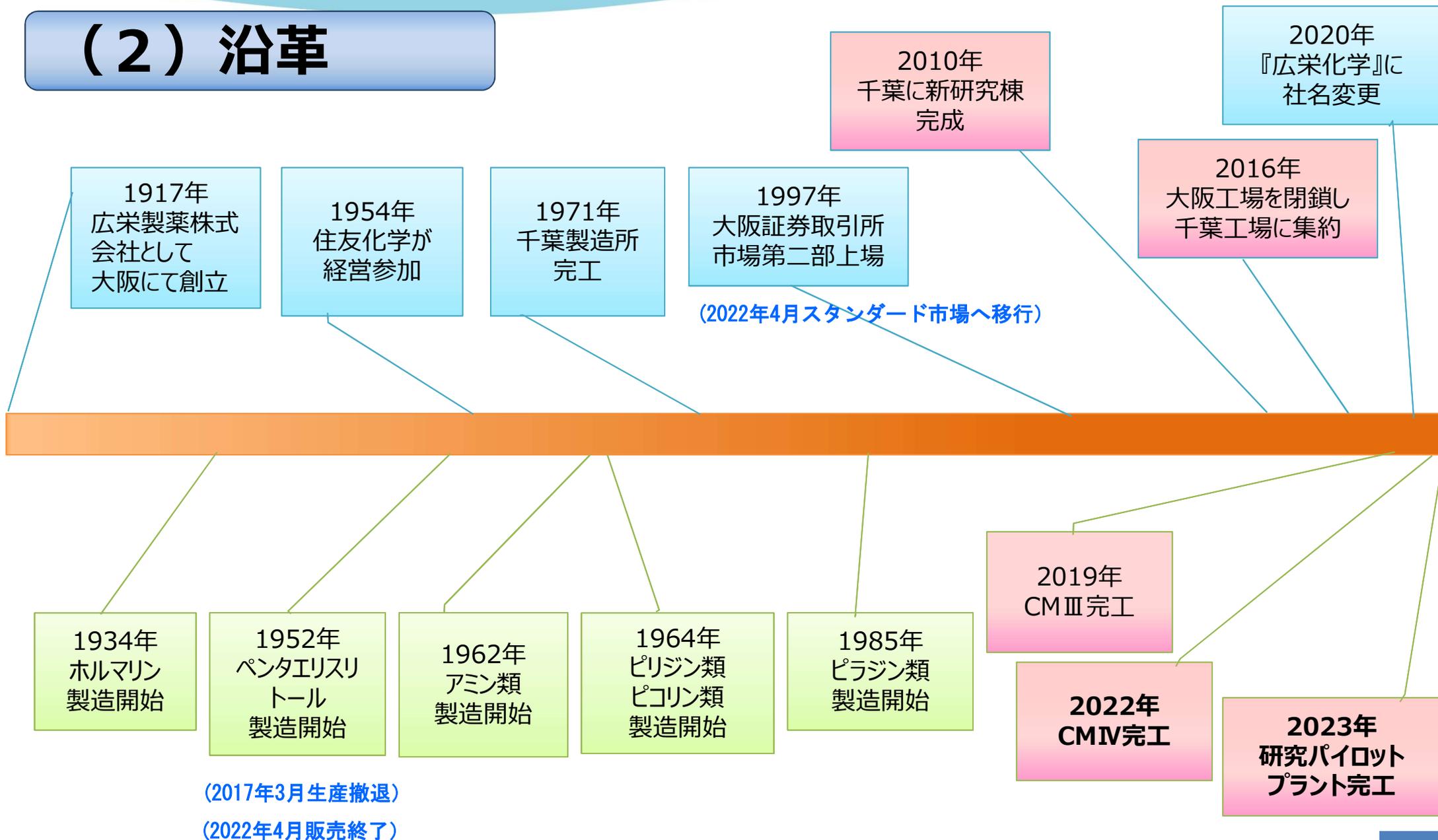


東京本社



1. 会社概要

(2) 沿革



1. 会社概要

(3) 事業内容 ① 基盤製品

広栄化学は、含窒素化合物のパイオニアです

ピリジン類

主な用途

医薬原料・農薬原料
電材関連・溶剤等

国内唯一の合成
ピリジンメーカー



ピラジン類

主な用途

結核薬ピラジナミド

ピラジナミド原料CPZは、
世界シェアNo.1



ホルマリン

主な用途

接着剤・塗料・樹脂・酸
化防止剤等

アミン類

主な用途

界面活性剤・樹脂
塗料・潤滑油
ゴム薬・
CO₂吸収材等

100種類以上の特殊アミン製造
少量多品種対応



1. 会社概要

(3) 事業内容 ② カスタム合成製品

医農薬中間体

培ってきた含窒素化合物の合成技術を生かし、
独自工業化プロセスを開発

国内外多数の製薬会社に
医薬中間体を供給

有機金属触媒

ポリオレフィン用重合触媒
であるメタロセン触媒に代表される
有機金属触媒を製造

有機合成技術と禁水・禁酸素
条件を組み合わせ
プロセスを構築

その他受託製品

電子材料関連製品等

(3) 事業内容 ③ 機能性製品

イオン液体

主な用途

帯電防止剤・電解液
溶媒等



ウレタン関連製品

URECKO®
KONPUS®

カスタム合成製品・機能性製品は、主にマルチプラント（CMI、CMIⅡ、CMIⅢ）で生産
2022年10月に、マルチプラント4系列目（CMIⅣ）が稼働。

目次

100年の技術と信頼を明日へ



1 .会社概要	2
◆ 2 .2024年度中間期決算概要	7
3 .2024年度業績見通し	14
4 .中期経営計画進捗	20
5 .新中期経営計画	36

2. 2024年度中間期決算概要

(1) 中間期ハイライト

(単位：百万円)

	2024年度 中間期実績	2023年度 中間期実績	増減 (前年同期比)	2024年度 (5/14中間期予想)
売上高	9,523	8,325	1,197	9,300
営業利益	543	279	263	400
経常利益	386	255	130	370
中間純利益	247	173	73	230
1株当たり利益	50.53円	35.50円	15.03円	47.02円

2. 2024年度中間期決算概要

100年の技術と信頼を明日へ



(2) 売上高 … 製品グループ別【前年同期比】

(単位：百万円)

	2024年度 中間期実績	2023年度 中間期実績	増減	増減の主な内訳
医農薬化学品	4,988	4,124	863	農薬関連 (↑) 抗潰瘍薬等関連 (↓)
機能性化学品	3,268	3,113	154	触媒関連 (↑) 電子材料関連 (↑) 光学材料関連 (↓)
その他	1,266	1,087	179	カーボンニュートラル関連 (↑)
合計	9,523	8,325	1,197	(売価差+288、数量差+909)

2. 2024年度中間期決算概要

100年の技術と信頼を明日へ



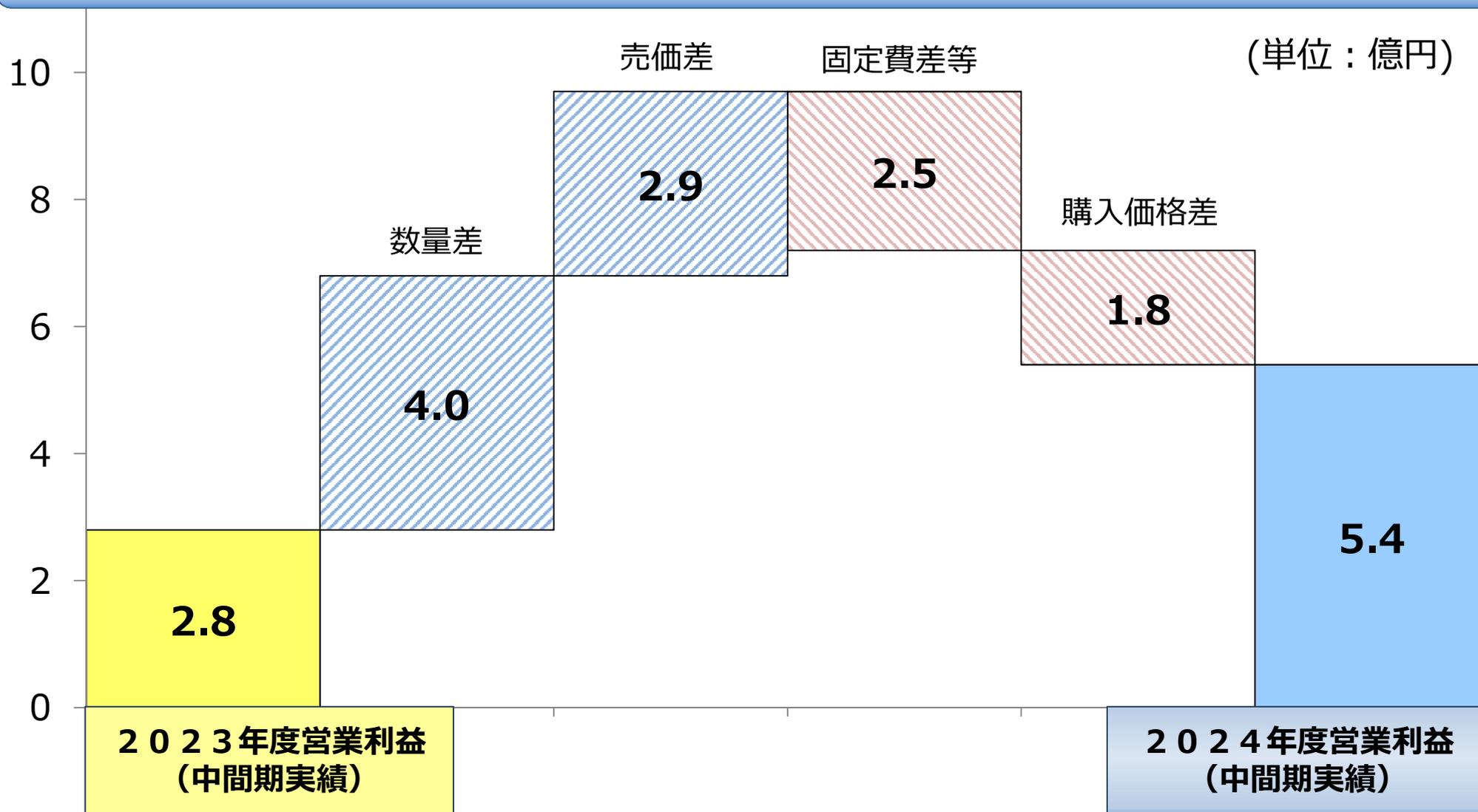
(3) 売上高 … 輸出地域別【前年同期比】

(単位：百万円)

	2024年度 中間期実績	2023年度 中間期実績	増減	増減の主な内訳
アジア	2,182	2,631	△449	農薬関連 (↓)
北米	1,584	151	1,433	農薬関連 (↑)
欧州	1,908	2,148	△240	抗潰瘍薬等関連 (↓)
その他	0	0	△0	
輸出合計	5,676	4,932	743	(円安によるプラス影響+115)
為替レート (円/米ドル)	(153.58)	(141.20)	(12.38)	
輸出売上比率	59.6%	59.2%	0.4%	

2. 2024年度中間期決算概要

(4) 営業利益分析【前年同期比】



2. 2024年度中間期決算概要

100年の技術と信頼を明日へ



(5) 貸借対照表

(単位：億円)

借方科目	(2024年3月末)	(2024年9月末)	増減	貸方科目	(2024年3月末)	(2024年9月末)	増減
[資産の部]	393.0	379.3	△13.7	[負債の部]	174.8	161.1	△13.7
流動資産	149.3	148.6	△0.7	流動負債	94.9	89.3	△5.6
固定資産	243.7	230.7	△13.0	固定負債	79.9	71.8	△8.1
				[純資産の部]	218.2	218.2	△0.0
合計	393.0	379.3	△13.7	合計	393.0	379.3	△13.7

● 主な増減要因 (資産)

売掛金	△13.8億円
有形固定資産	△13.2億円
棚卸資産	+8.9億円
預け金	+3.0億円

● 主な増減要因 (負債)

借入金	△19.8億円
買掛金	+10.9億円
設備未払金	△5.4億円

2. 2024年度中間期決算概要

100年の技術と信頼を明日へ



(6) キャッシュ・フロー【前年同期比】

(単位：億円)

	2024年度 中間期実績	2023年度 中間期実績	増減	増減の主な内訳
営業キャッシュ・フロー	33.8	27.1	6.7	運転資金改善
投資キャッシュ・フロー	△7.2	△6.8	△0.4	
フリー・キャッシュ・フロー	26.6	20.3	6.3	
財務キャッシュ・フロー	△22.4	△19.0	△3.4	
現金等同等物増減	4.0	1.8	2.2	
中間期末現預金残高	9.6	5.5	4.1	
中間期末借入金残高	73.2	90.0	△16.8	

目次

100年の技術と信頼を明日へ



1 .会社概要	2
2 .2024年度中間期決算概要	7
◆ 3 .2024年度業績見通し	14
4 .中期経営計画進捗	20
5 .新中期経営計画	36

3. 2024年度業績見通し

100年の技術と信頼を明日へ



(1) 2024年度業績進捗状況

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益
中間期実績	9,523	543	386	247
中間期公表 (5/14)	9,300	400	370	230
達成率 (対中間期公表値)	102.4%	135.9%	104.5%	107.4%
年間公表 (5/14)	21,500	1,000	950	650
進捗率 (対年間公表値)	44.3%	54.4%	40.7%	38.0%

3. 2024年度業績見通し

100年の技術と信頼を明日へ



(2) 製品グループ別売上高進捗状況

(単位：億円)

	2024年度 中間期実績	2024年度 年間公表	進捗率 (%)	主な製品の進捗状況
医農薬化学品	49.9	88.8	56.2%	農薬原料 (堅調) 医薬関連 (堅調)
機能性化学品	32.7	103.0	31.7%	光学材料関連 (下期拡販想定) 触媒関連 (下期拡販想定) イオン液体 (下期回復想定)
その他	12.7	23.2	54.7%	カーボンニュートラル関連 (堅調)
合計	95.2	215.0	44.3%	

(3) 事業環境

● 事業環境

		前期		当期以降
・医薬関連	需要：堅調	(-)	→	(-)
・農薬関連	需要：底入れ	(-)	→	(↑)
・触媒関連	需要：低迷	(↓)	→	(-)
・電材関連	需要：低迷	(↓)	→	(-)

→ 触媒、電材関連は2024年度下期回復を想定するが需要動向は要watch

● 取組み

- ・新規用途開拓
- ・新製品開発
- ・厳選投資

→ 2024年度目標達成へ努力
中長期的な業績拡大への布石

3. 2024年度業績見通し

100年の技術と信頼を明日へ



(4) 2024年度業績予想【概要】

2024年5月14日公表から変更なし

(単位：百万円)

	2024年度 予想	2023年度 実績	増減 (前期比)	2024年度 中期計画
売上高	21,500	19,427	2,073	21,400
営業利益	1,000	415	585	2,100
経常利益	950	347	603	
当期純利益	650	299	351	1,500
1株当たり配当金	100円	100円	-	

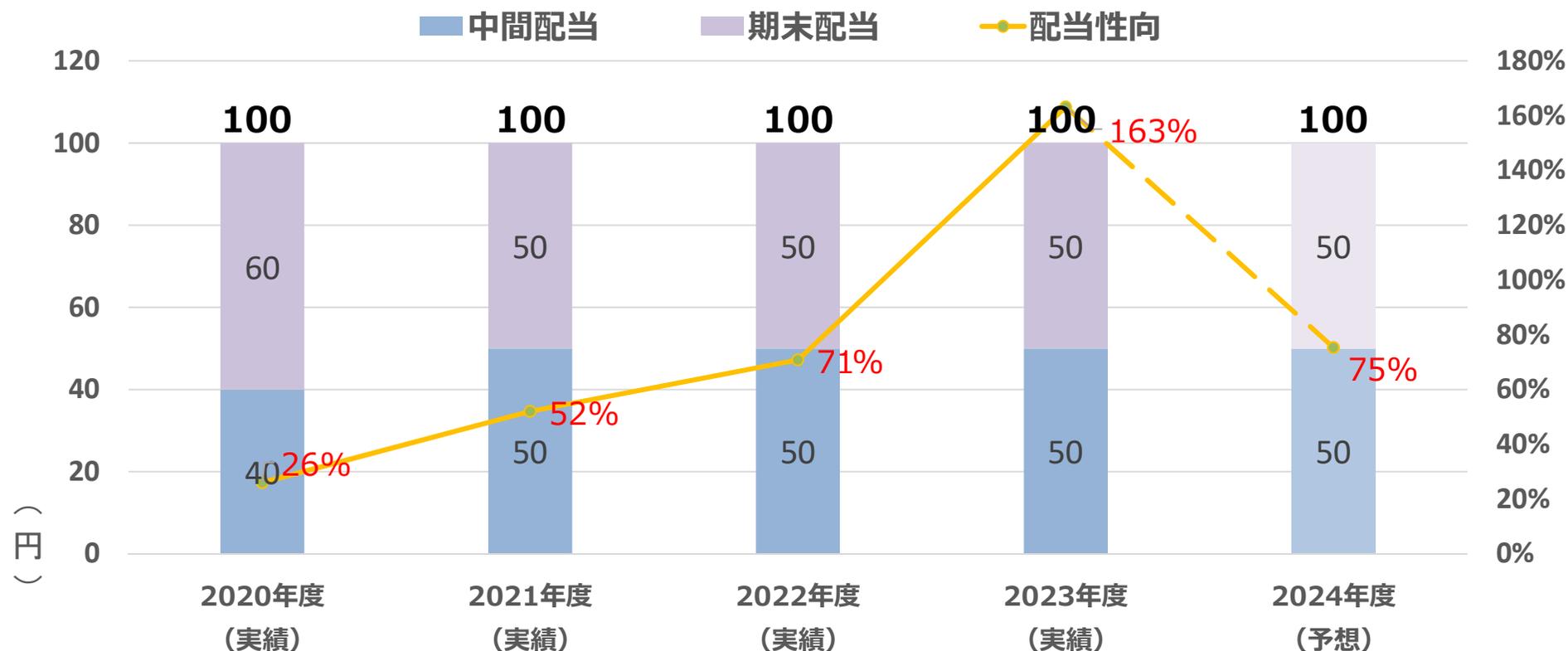
3. 2024年度業績見通し

(5) 配当予想 (当初予想から変更なし)

配当政策

配当は、株主の長期的かつ安定的な利益の確保と、会社業績の状況、将来的な事業展開に備えるための株主資本の充実などを総合的に勘案し決定する。

配当性向については、原則50%を目途に株主還元を実施する方針とする。



目次

100年の技術と信頼を明日へ



1 .会社概要	2
2 .2024年度中間期決算概要	7
3 .2024年度業績見通し	14
◆ 4 .中期経営計画進捗	20
5 .新中期経営計画	36

4. 中期経営計画進捗

(1) 業績推移

KOEI VISION 2030

(金額：億円)

中期経営計画 (2022年度-2024年度)

『伝承と挑戦』 KX2.0

項目	2022年度		2023年度		2024年度	
	実績	中期計画	実績	中期計画	予想	中期計画
売上高	186	195	194	204	215	214
営業利益	8	11	4	15	10	21
当期利益	7	8	3	10	7	15
EBITDA	33	36	34	45	41	53

(前提条件)

為替(\$/円)	136	125	146	110	140	110
(€/円)	142	135	160	130	150	130
ナフサ(KL/円)	76,800	82,000	68,700	50,000	70,000	50,000

2030年度
売上高:300億円
ROIC:10%

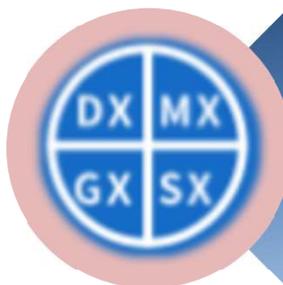
※EBITDA: 金利・税金・償却前利益 (Earnings before interest, taxes, depreciation and amortization)

4. 中期経営計画進捗

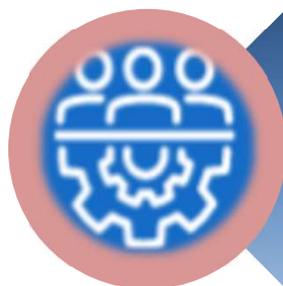
(2) 基本方針



1) 事業成長戦略加速



2) 経営基盤強化



3) 人材育成強化・加速

4. 中期経営計画進捗

(2) - 1) 事業成長戦略加速 進捗サマリー

① 基盤製品の競争力強化 / 高付加価値化

- CO2吸収材：千葉研究所にCO2吸収・脱離性能を評価する設備を導入し **DAC(Direct Air Capture)分野を重点ターゲットと捉え自社開発を加速。**
- 農薬中間体：北米向け α P 継続受注し増産対応中。

② 機能製品・新規事業拡大

- 有機金属触媒：既存品は一時的に需要低迷も本年下期以降需要回復の見通し。主要顧客向け新製品開発推進中。
- 光学材料製品：CMIVにて新製品初生産実施し工業化確立に成功。
- 医薬カスタム品：研究パイロットプラントにて新製品初生産実施し工業化確立に成功。
- イオン液体：セルロース溶解イオン液体「KOELIQ®-SL01」の事業化に向け国内外の大学や企業と共同研究中。その一環として **「KOELIQ®-SL01」で前処理したセルロースから一気通貫でバイオエタノール生成に成功。**

③ 事業ポートフォリオの高度化

- アミンプラント：インド現地企業との事業提携検討中。
- 気相プラント：CO2吸収材の量産化に向けた工業化確立を検討中。

4. 中期経営計画進捗

(2) - 1) 事業成長戦略加速

① CO₂吸収アミンのDAC評価

自社製品開発：

重点ターゲットはDAC (Direct Air Capture)

- 高精度のCO₂濃度計を導入

大気中のCO₂濃度領域 (約400ppm)を高精度に測定可能

- 固体吸収材の評価が可能

DAC向けのCO₂吸脱着性能の評価装置を構築

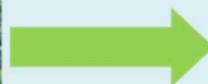
4. 中期経営計画進捗

(2) - 1) 事業成長戦略加速

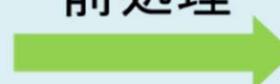
② イオン液体を用いたバイオエタノールの生成



バイオマス



セルロース



KOELIQ-SL01

前処理

糖化

発酵

酵素

微生物



エタノール

「KOELIQ®-SL01」で前処理したセルロースから
一気通貫でバイオエタノールを生成

4. 中期経営計画進捗

(2) - 1) 事業成長戦略加速

③ ホルマリン事業90周年

<ホルマリン事業年表>

(● : 大阪工場関連、● : 千葉工場関連)

ホルマリン事業90周年 2024

大阪でホルマリン製造停止 2002

1971 千葉でホルマリンの製造開始

1934 大阪(放出)でホルマリン製造開始

1917 広栄製薬 (現広栄化学) 創立

<ホルマリン用途>

- 当社はホルマリンを100以上のユーザーに供給し、**食品・健康分野**や**エレクトロニクス分野**、**医薬分野**など多岐にわたる用途で使用
- 自製原料として、ピリジン類などの原料として使用

食品・健康分野

添加物

エレクトロニクス分野

電子部品等

医薬分野

固定液、防腐剤
抗がん剤等

建材・土木分野

合板用接着剤、
コンクリート減水剤等

自製原料

ピリジン等

電子材料、農薬等

4. 中期経営計画進捗

(2) - 1) 事業成長戦略加速

④ ピリジン事業60周年

<ピリジン事業年表>

(●: 大阪工場関連、●: 千葉工場関連)

ピリジン事業60周年 2024

大阪でピリジン類製造停止 2003

1972 千葉でピリジン類の製造開始

1969 ピリジンの製造に対し、大河内記念会より「大河内記念生産賞」受賞

1964 大阪(放出)でピリジン製造開始

<ピリジン用途>

- 日本で初めて合成法でのピリジンの製造に成功
- 当社ではピリジン類としてピリジン、ピコリン類等の各種のピリジン誘導体を製造

医薬分野

医薬品用溶媒等
抗菌剤原料等

エレクトロニクス分野

半導体プロセス材料

農薬分野

除草剤
殺虫剤

電池関連分野

リチウムイオンバッテリー
添加剤

工業薬品関連分野

加硫促進剤原料

4. 中期経営計画進捗

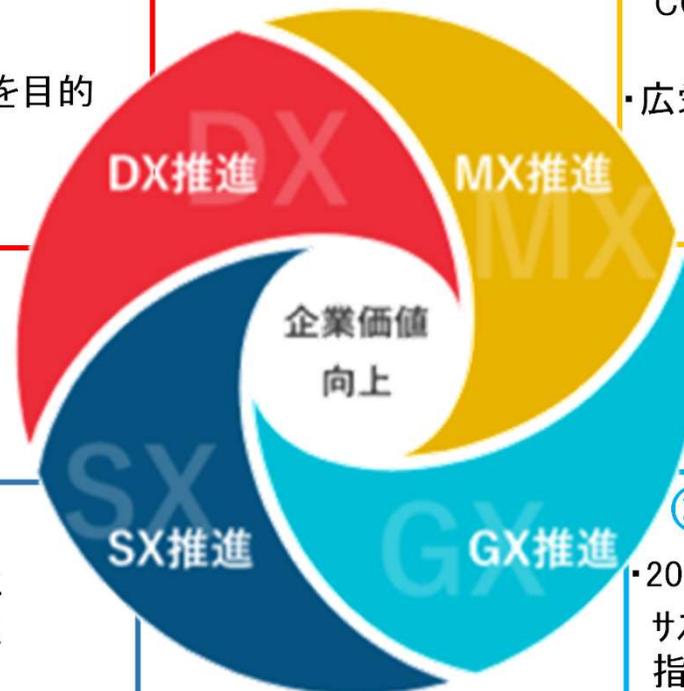
(2) - 2) 経営基盤強化 進捗サマリー

① デジタル革新

- ・PLANT, R&D, SCM, OFFICEの各領域で22件のプロジェクトが完了しており、13件のプロジェクトが推進中。
- ・全役員社員のDXリテラシー向上を目的としたe-Learningサービス(Aidemy Business)を受講中。

② マネジメント革新

- ・2023年度経営指標実績
ROIC:1%(前年対比1%悪化)
CCC:166日(前年対比15日改善)
- ・広栄化学レポート2024:2024年10月1日発行



④ サステナビリティ革新

- ・次期中期経営計画への取組みに向け新KPI及びTCFD対応に着手
- ・障がい者雇用比率:2024年 3.3%(9月末)
(KPI 2.5%以上)
- ・新卒採用女性比率:2024度 50%
(KPI 20%以上)

③ ガバナンス革新

- ・2024年度上期実績開催実績
サステナビリティ委員会 1回
指名委員会 1回
報酬委員会 1回
内部統制委員会 2回,
レスポンスブルケア委員会 1回
共同内部監査の充実化
- ・IR活動強化(四半期決算説明会、投資家との個別面談)

4. 中期経営計画進捗

(2) - 3) 人材育成強化・加速 進捗サマリー



① マネジメント強化

- ・管理者層のマネジメント強化のため、コーチング研修(理事・幹部社員)、G2 bird's-eye view セッション(管理社員) 実施
- ・全社イノベーション大会開催によりイノベーションを生み出す組織風土を醸成



② 中堅社員の育成

若手社員の早期戦力化

- ・中堅社員研修プログラムの事前及び事後課題に対して上司による指導を加え、育成を強化
- ・社内大学「広栄MANABIYA」の2025年春開講に向け研修体系見直し中。先行して中途社員の入社時研修刷新し(実践中心、期間延長)早期戦力化



③ 人事制度見直し

60歳以降の雇用制度

- ・定年年齢の延長(2025年度から1歳ずつ引き上げ2033年度に65歳とする)
- ・再雇用制度見直し中

4. 中期経営計画進捗

(2) - 3) 人材育成強化・加速

① マネジメント強化 全社イノベーション大会

『KOEI Vision 2030』に掲げた製造・販売・研究・間接部門すべての部門でのイノベーションを加速させるため、「第1回 全社イノベーション大会」を開催。

口頭発表5件とポスターセッション11件の発表が行われ、会場・オンラインで200名を超える社員が参加し、全社全部門での様々なイノベーションの取り組みを共有。



(口頭発表)



(ポスターセッション)

口頭発表 最優秀賞「CO₂分離・回収アミンの開発」

4. 中期経営計画進捗

(2) - 3) 人材育成強化・加速

② 社員育成 研修プログラム見直し

自ら学び成長し続けてもらうための機会の提供

業務のプロフェッショナルを目指して自律的に学び、生涯にわたって成長し続けてもらうために、2025年度春から社内大学『**広栄MANABIYA**』をスタート予定。さまざまな階層や分野のニーズに即した教育カリキュラムを「コア研修」「階層別研修」「専門研修」といった豊富なコースを用意。研修やスキルの見える化のために教育関連システムも同時に導入します。



(研修プログラムの見直し検討の様子)

【広栄化学の求める人物像】

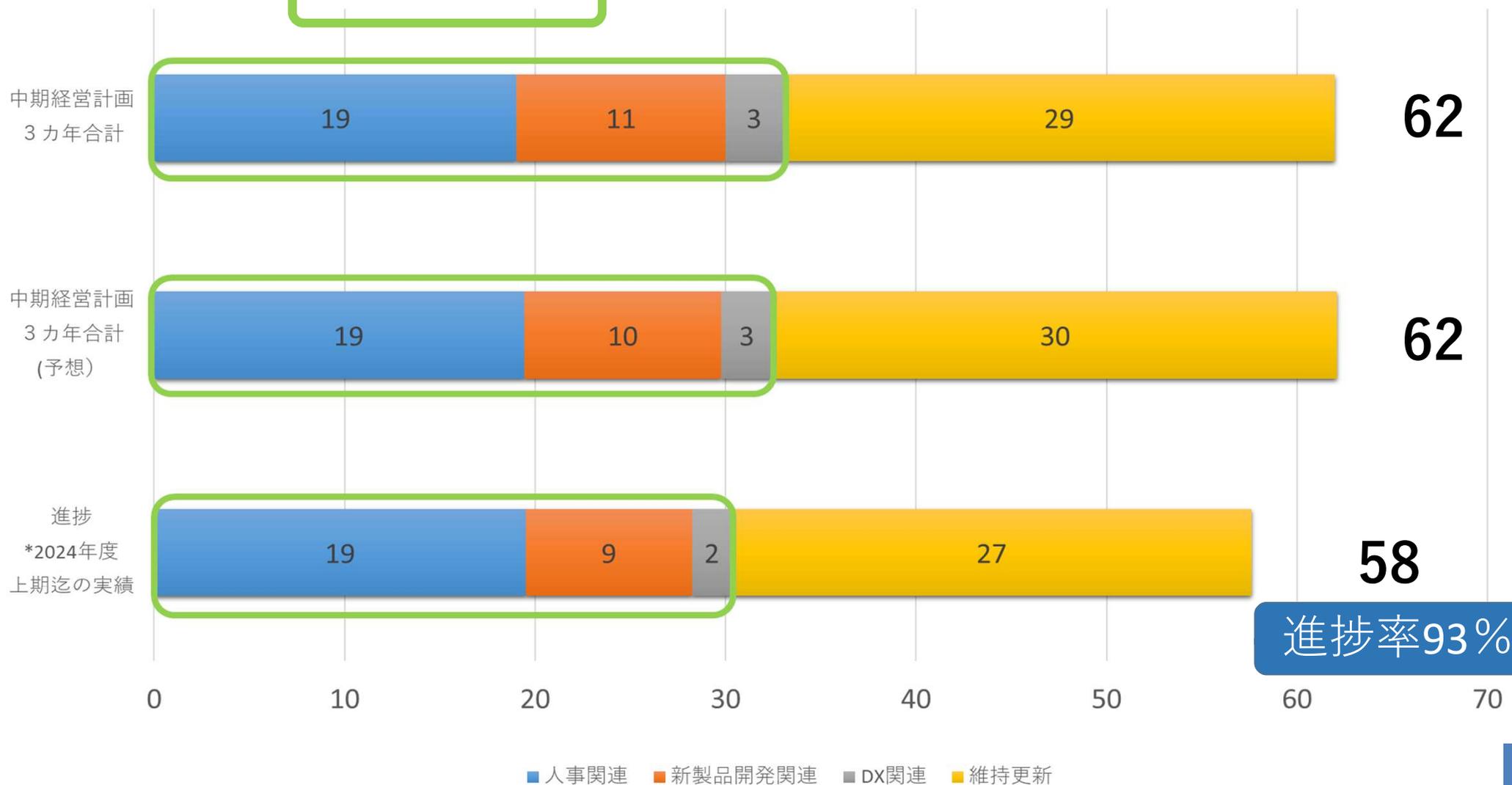
- ①自己成長を通じたプロフェッショナル人材
- ②当事者意識と主体性を持ち、自らの意思で高い目標を設定し積極的に挑戦
- ③One KOEIでベストパフォーマンスを生み出す担い手

4. 中期経営計画進捗

(3) 設備投資計画 進捗サマリー

サステナブル投資

【金額:億円】

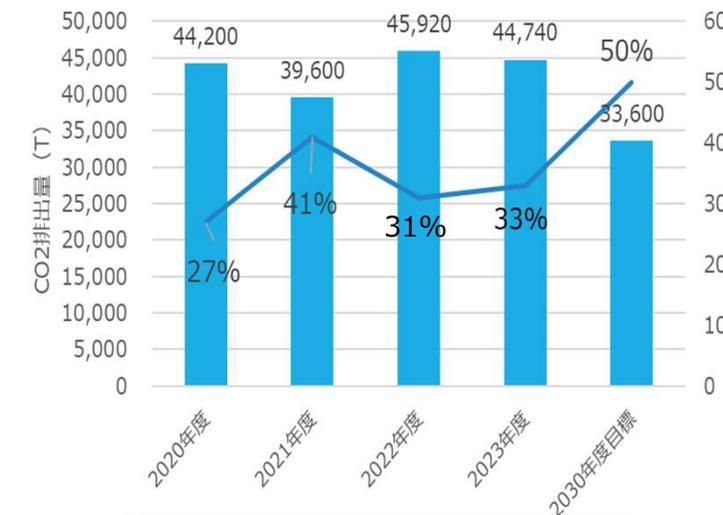


4. 中期経営計画進捗

(4) サステナビリティ活動推進状況

KPI項目	2022年度実績	2023年度実績	推移
CO ₂ 排出量 (Scope 1 + 2)	32%削減	33%削減	→
エネルギー消費原単位改善 ※1	94.5	90.6	→
農薬原料・中間体売上高	27億円	31億円	→
医薬原料・中間体売上高	55億円	67億円	→
電子材料関連製品売上高	45億円	45億円	→
新製品売上比率	13.3%	26.6%	→
合理化金額の累積	7億円	10億円	→
デジタル成熟度判定※2	1.9	2.8	→
新卒採用に占める女性社員割合	14.3%	40.0%	→
障がい者雇用率	3.7%	3.4%	↓

CO₂排出量 (Scope 1+2)
目標：2013年度比50%削減 (2030年度)



新製品売上高及び比率



※1 2023年度から算出方法を変更。売上高当たりのエネルギー消費量を、2020年度実績を100として指数化

※2 経済産業省のDX推進指標を基に定めた12の項目について6段階で評価しデジタル成熟度レベルを判定

4. 中期経営計画進捗

(4) サステナビリティ活動推進状況

① EcoVadis「シルバー」評価獲得

2023年



2024年



エコバディス（EcoVadis）社（本社：フランス）実施のサステナビリティ調査において、評価対象の**上位15%**に相当する**「シルバー」**評価を獲得。
「ゴールド」評価獲得に向けて、引き続き、取組みを強化していく。

4. 中期経営計画進捗

(4) サステナビリティ活動推進状況

② 広栄化学レポート発行

『広栄化学レポート』を10月1日に発行。
「女性取締役座談会」や「社会に役立つ広栄化学」、「製販研の事業戦略」など、新しいコンテンツを数多く掲載。

女性取締役座談会



社外取締役
上田 亮子

2007年当子監理人からキャリアスタート。日本投資家連盟理事を歴任。2020年以降、複数企業にて社外取締役に就任。大学卒業後にも職歴とついでに、当社取締役には2024年に就任。

取締役
深堀 敬子

1981年当社入社。研究員からキャリアスタートし、技術職、製造課長兼生産課工場課長、研究開発本部長等を歴任。2019年取締役就任。

社外取締役監査等委員
八田 陽子

1988年East Marwick Main & CO. (現KPMG LLPニューヨーク事務所) 入社からキャリアスタート。2015年以降、複数企業にて社外取締役等委員に就任。当社取締役監査等委員には2022年に就任。

広栄ブランドに磨きをかけて会社の持続性に繋げる

Q. 広栄化学の印象や魅力についてお聞かせください。

〔深堀〕当社は100年を超える歴史があり、先人から受け継がれ、社員一人ひとりがこれまで積み重ねてきた技術や経験を基盤にもつくり活かしていることが強みだと思います。

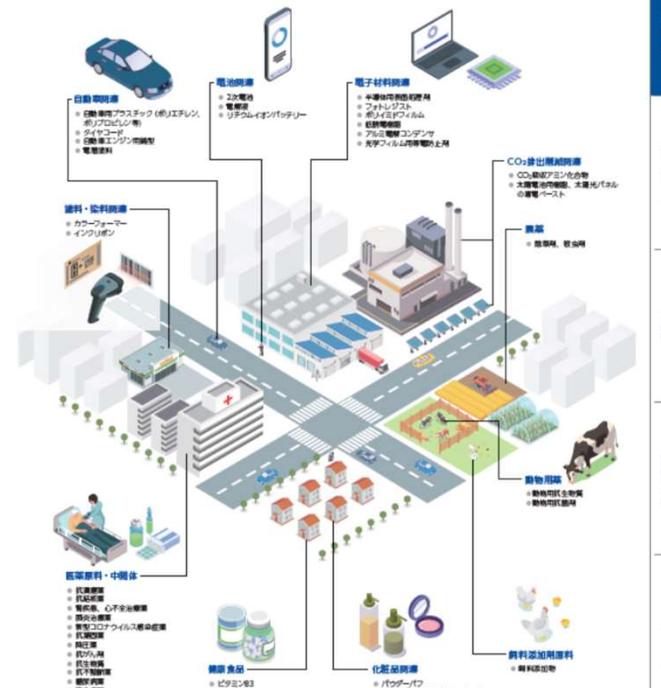
しかし、ものづくりはしっかりしているものの、顧客目線で考えるところがあるかもしれません。

〔上田〕今年就任したばかりですので、内実はこれからです。が、技術力に誇りを持っている会社であるという印象を持っています。広栄化学レポートやウェブサイトでの展示なども含め、情報提示の質が高いと思います。ガバナンスに

企業価値向上に向けた様々な取り組みを紹介

社会に役立つ広栄化学

当社は、基礎製品（ピリジン類、ピラジン類、アミン類、ホルマリン）、機能製品・新薬事業（カスタム合成製品、機能性製品）を年産約150品目生産しています。当社製品は、医薬品、電子材料関連、CO₂排出削減関連や塗料、自動車関連など、多種多様な用途として使用されており、社会の様々な場面で、皆さんの生活の役に立っています。



目次

100年の技術と信頼を明日へ



1.会社概要	2
2.2024年度中間期決算概要	7
3.2024年度業績見通し	14
4.中期経営計画進捗	20
◆ 5.新中期経営計画	36

5. 新中期経営計画

(1) 事業環境

当社を取り巻く事業環境

- (1) 脱炭素社会の構築に向けた取組みの深化と加速及び新規事業機会の確立
- (2) 米中摩擦激化、地政学リスク（中東/ロシア・ウクライナ/アジア情勢等）拡大懸念
- (3) インフレによる物価高騰及び為替・金利変動によるリスク拡大
- (4) サステナブルなイノベーションによる社会・環境課題解決の取組み加速
- (5) 加速度的な生産年齢人口減少による労働力確保

主要製品分野の見通し

基盤製品

- (1)ピリジン・ピラジン類
 - 農薬関連：中長期的に需要安定
 - 医薬関連：堅調に推移する見込み
- (2)アミン類
 - 新規受託案件：中長期的に需要安定
- (3)カーボンニュートラル関連
 - CO2吸収材：受託ビジネス拡大見込み
自前製品によるDACビジネス参入

機能製品・新規事業

- (1)有機金属触媒
 - 需要回復を見込み拡販、新製品開発を図る
- (2)医農薬中間体
 - 受託ビジネス拡大を図る
- (3)イオン液体
 - セルロース溶解等、用途開発を加速
- (4)住友化学グループシナジー拡大
 - 医農薬中間体受託・協業強化
 - 光学材料及び触媒等受託拡大

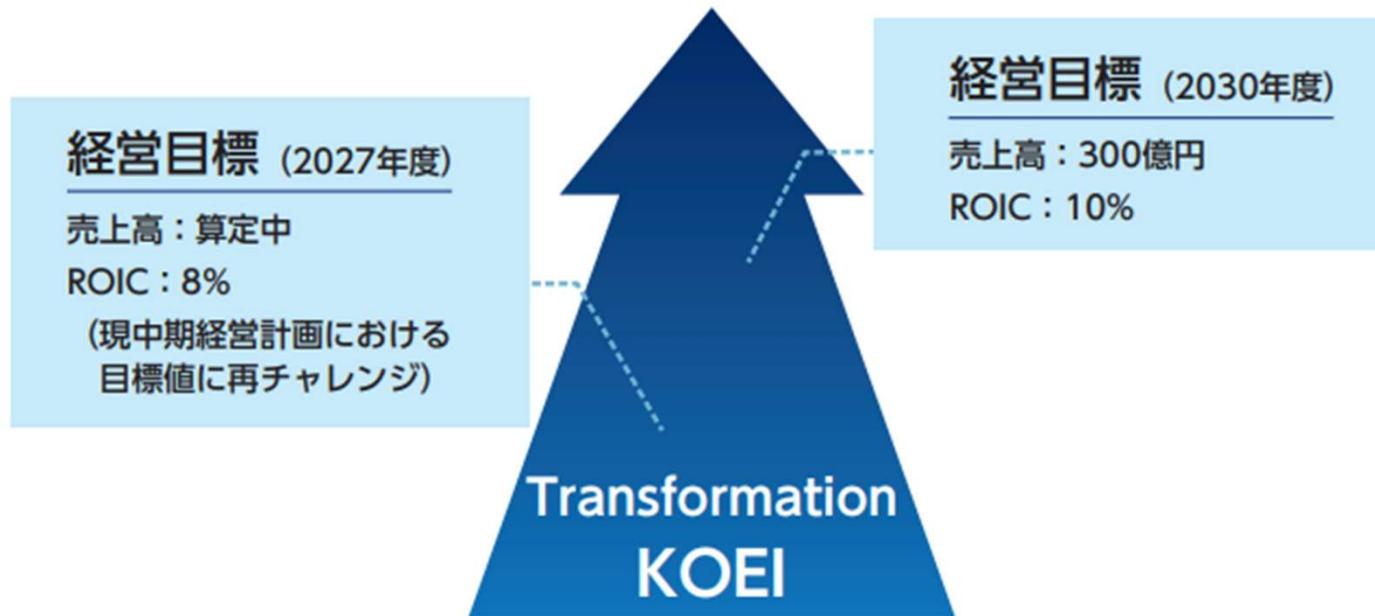
5. 新中期経営計画

(2) 新中期経営計画の方向性

KOEI Vision 2030へ向けて①

- 収益力があり成長を続ける会社
- 事業を通じて社会に貢献する会社
- 皆が働きがいを持ち、幸せになれる会社

KOEI Vision 2030



5. 新中期経営計画

(2) 新中期経営計画の方向性

KOEI Vision 2030へ向けて②

現中期経営計画

1) 事業成長戦略加速

2) 経営基盤強化

3) 人材育成強化・加速

新中期経営計画

(1) 収益力強化

(2) 事業成長加速

(3) 経営基盤強化

重点項目

- ✓ 製品ポートフォリオ見直し
- ✓ CO2吸収用途アミン化合物の開発・拡販
- ✓ 有機金属触媒の開発・拡販
- ✓ アミン・気相プラントの生産体制最適化

ご清聴ありがとうございました。

【注意事項】

本資料には、当社に関する業績その他の予想、見通し、目標、計画その他の将来に関する事項が含まれています。これらの事項は、作成時点において入手可能な情報による当社の仮定、見積り、見通しその他の判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。したがって、その後のさまざまな要因により、予想・計画・目標等が記載どおりに実現しない可能性や、実際の業績、研究開発の成否・進捗その他の見通し等が記載内容と大きく異なる結果となる可能性があります。